

お米博士になろう

目 標

- ・米の生産について調べたり体験したりすることを通して、米のよさや生産における問題に気づき、様々な食文化や食生活に関心をもって自分にできることを考えることができる。

育てたい力

- 調べた内容や自分の考えをまとめ、適切に表現する力。
- 活動を通して学習したことから、自分にできることを具体的に考える力。

主な学習活動（調べ活動・発表会：20 時間、体験活動：5 時間）

田植え体験

（6 月）

- ・（株）太陽と月と地球 稲葉ファームに協力してもらい、田植え体験を通して、田植えの苦労を実感することができた。また、農家の人の話から、具体的な活動内容や働く人の思いを知ることができた。



調べ活動

（7～10 月）

- ・田植え体験や社会科の学習を通して、興味をもったことを課題に設定し、調べ学習を行った。インターネットを活用して、より多くの情報を収集し、自分の知識や考えを広げたり深めたりした。



稲刈り体験

（中止）
（10 月）

- ・6 月に田植えをした稲を収穫する体験を予定していたが、天候不良で中止となった。稲刈りを経験することはできなかったが、後日、収穫した稲を届けていただき、自分が植えた稲を手にする喜びを感じることができた。

発表会

（11 月）

- ・体験や調べ学習を通して学んだことをスライドにまとめ、発表会を行った。一人一人のテーマが異なるため、互いの発表に興味をもって聞くことができた。「もっと調べてみたい」と、これからの意欲につなげる姿も見られた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「米には思ったよりもたくさんの種類があってびっくりした。」「農家が減って、これからは心配だと思った。」「これからは米を残さずに食べたいと思った。」「普段自分が食べている米がどんな種類なのか調べてみたいと思った。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

身近な米をテーマに自ら課題を見付け、活動を進めた。実際に田植えを経験し、社会科「わたしたちの生活と食料生産」の学習内容と結び付けたことで、多様な角度から米を捉えることができた。また、様々な課題をもった友達の発表から、米への新たな見方に気づき、「そのことも調べてみたい」という児童の姿が見られた。今回の学習を通して、これからの生活に生かしていこうとする意欲が高まった。

体験先、関係機関

（株）太陽と月と地球 稲葉ファーム（岩見沢市）